

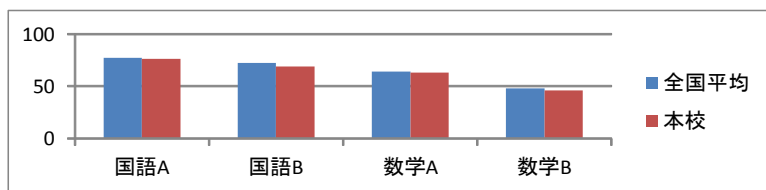
まつかわ

学力向上に向けて ～ 全国学力・学習状況調査の結果より ～

松川町広報 No39 でも伝えられておりますが、本年度実施しました全国学力学習状況調査に關しまして、中学校での分析結果に関する特徴的な部分について保護者の皆様にも報告します。



1 松川中学校の平均正答率と全国平均との比較 領域、評価の観点での比較



・国語AB, 数学AB共に、全国平均より若干低めですが、ほぼ同程度の数値とみることができます。

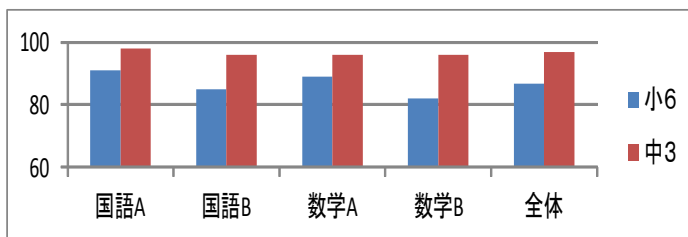
・国語については、文章のつながりを読み取るような問題、意味が通る文を書くような問題、自分の考えを書き表す問題に苦手意識

がうかがえましました。数学については、関数の関係を説明するような問題、文字を用いて関係を式で表すような問題や、証明問題に苦手意識がうかがえましました。

このように見えてきた課題に関しては、本年度の授業の中でどの学年に対しても意識して指導を行っています。

2 経年変化による学力分析

昨年度の生徒と今年度の生徒は違います。前年の結果と今年の結果を単純に比較することはあまり意味がないと考えます。今年度の中3生は平成26年度小学校6年でも同様の調査を行っておりますので、この時の結果と比較することで、小6年次から中3年次までの学習の成果を検証することができます。

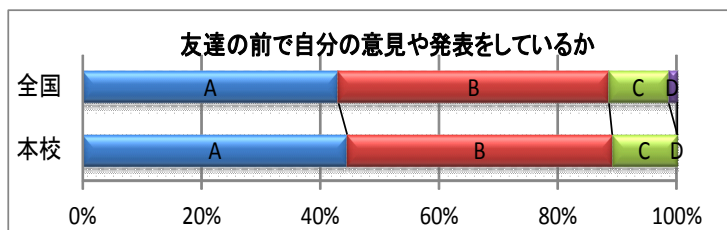


右のグラフを見ますと、小6, 中1, 中2における学習の成果が国語でも数学でも表れています。このグラフではわかりませんが、別のデータからは比較的点数の低かった層の生徒の伸びが顕著であったことがうかがえましました。どの段階の生徒に対してもつける力を明確にしながら伸ばしていきたいと考えております。

3 生徒質問紙からみえてきたこと

全国学力学習状況調査では、学習に関して様々な視点から生徒に質問をしています。本校の学習の実態を分析し、方策を立てるには、この質問紙結果も大変重要です。ここ数年本校の生徒が苦手としてきたいくつかの項目について、今年度は国と平均値と比較をしてみました。

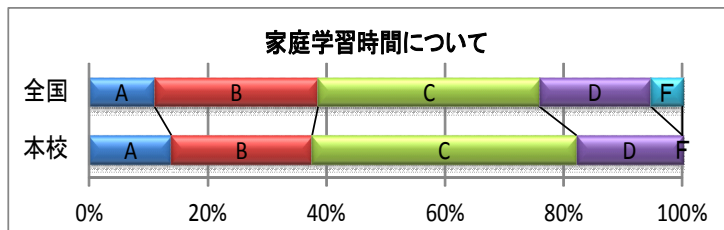
○友達の前で自分の意見や発表をしていますか？



- A 当てはまる
- B どちらかといえば、当てはまる
- C どちらかといえば、当てはまらない
- D 当てはまらない

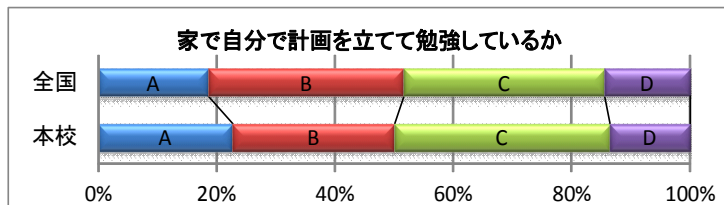
・この項目に関しては、ここ数年本校で力を入れてきた項目です。徐々に伸びが見られ、昨年ほぼ全国平均と同値までできました。本年度の学習重点項目に「自らの言葉で語る生徒の育成」を掲げている訳ですが、右の結果からもわかるように、今年度も全国とほぼ同値となっています。よって、ある程度成果をあげることができていると考えられます。これからも活発な意見交換のできる授業を目指し取り組んでいきたいと考えております。

○毎日どのくらい家庭学習を行っていますか？



- A 3時間以上 B 2時間～3時間 C 1時間～2時間
D 30分間～1時間 E 30分以下 F 全くしない

○家での学習では、自分で計画を立てて勉強していますか？



- A している B どちらかといえば、している
C あまり、していない D 全くしていない

また、生徒質問紙には、以下のような授業について教師を姿を評価する項目もあります。

- 授業の中で目標が明確になっているか ○授業の最後に振り返りの場面があるか
○授業で、話し合い場面が位置づいているか ○授業でノートに学習の目標とまとめを書いているか

このような視点に対しての結果を意識して授業することが授業改善につながります。これからも生徒の授業や学習に対する意欲がより高くなる、学習内容が一人一人に定着するような授業を目指していきたくと思います。

また、「朝食を毎日食べていますか」「新聞を読んでいますか」等日常生活に関する質問もあります。家庭での生活に関しては、保健室や給食室からの情報発信の中でも話題にさせていただいておりますが、全国平均との大きな差異はありません。さらに「学校に行くのは楽しいと思いますか」「学校で友達に会うのは楽しいと思いますか」等の質問に関しては、全国よりよい傾向です。今後も一層の努力をしていきます。

4 今年度、学力向上に向けて取り組んでいること、いきたいこと

①早期採点を活用した授業改善の取り組み

全国学力学習状況調査の結果は、8月末に出されますが、松川中学校では、4月テスト実施直後に文部科学省より示された解答を使って本校職員で独自に採点に取り組み、早い段階で生徒の傾向や弱点を掴むことを実施しました。その結果、数学では、「説明する力」は、力を入れて指導し、授業の生徒の様子から一定の手応えを感じていましたが、採点してみた結果、手応えほど生徒の力がついていないことが浮き彫りになりました。

そこで、5月～6月に教科会で、「説明する力をつけるためには具体的にどんな授業改善をしなければならないか」を検討し、弱い部分を補完する学習を新たに行いました。このような取り組みは、全国学力学習状況調査だけでなくNRT学力調査(1年…国社数理 2年…国社数理英)においても取り組み、指導が充分でない部分を早期にみつけ具体的な対策するようにしています。

②タブレットなどのICT機器の授業への積極的活用

昨年今年と、生徒用タブレット40台、教師用タブレット30台、電子黒板1台、無線LAN用アクセスポイント、英語科や理科デジタル教科書等を町教育委員会より購入していただきました。これらの機器を利用しながら、学習に対する生徒の興味関心がより高まるようにこれからも授業を工夫していき、生徒相互が声を出して語り合える授業を目指していきます。



・**家庭学習時間**に関しては、数年前の本校の数値は全国平均に比べ大変低い値でした。そこで、松川町では小中学校生に対して「家庭学習のてびき」を作成し、町をあげて指導してきました。その結果、徐々に時間は増加してきました。それでも、まだ「2時間以上の学習」をしている生徒は、全国よりも低い数値です。一方「まったくしない」という生徒はいないという結果も表れています。

・**自分で計画を立てて勉強をしているか**という質問に関しては、ここ数年なかなか伸びの無い項目でした。昨年後半より、いくつかの教科の中で家庭学習の中に「自分で何をやらなければならないか」という部分も考えさせるように指導してきた結果、本年度は全国平均とほぼ同値にまであげることができました。

・**ノルマを課して行う家庭学習**により、学習時間は伸びてきました。今後は**自らが計画を立てて、十分な時間を生徒自らができるように指導**することが本校の課題です。